

## 川崎市建築物環境配慮制度受付番号 21008

建築物名称	かわしん百合丘ビル
建築主	川崎信用金庫 総務部長 直井 貴幸
建築物の所在地	川崎市麻生区百合丘一丁目20番1
設計者氏名、建築士事務所名	小谷 敏之 株式会社コモン・リンク 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	2,902.74㎡
用途	物販店舗・寄宿舍
構造	鉄筋コンクリート造
階数	地上9階、地下1階
工事完了年月	令和5年1月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用、燃料系潜熱回収瞬間式給湯器
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	なし

# Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency CASBEE川崎

■使用評価マニュアル：CASBEE-川崎2017年版

使用評価ソフト：CASBEE-川崎2017(v.3.1)

## 評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	かわしん百合丘ビル	階数	地上9F/地下1F
建設地	神奈川県川崎市麻生区百合丘一丁目20番1	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	165 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	物販店,集合住宅,	評価の段階	竣工段階評価
竣工年	2023年1月 竣工	評価の実施日	2021年6月1日
敷地面積	494 m <sup>2</sup>	作成者	株式会社コモン・リンク
建築面積	403 m <sup>2</sup>	確認日	2021年6月1日
延床面積	2,903 m <sup>2</sup>	確認者	株式会社コモン・リンク

外観パース等  
パースの公表を希望される場合は  
図を貼り付けてください

### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 0.9**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub> (温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%  
②建築物の取組み 87%  
③上記+②以外の 87%  
④上記+ 87%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価 (バーチャート)

**Q 環境品質** Q のスコア = 2.5

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.1

音環境	3.0
温熱環境	2.6
光・視環境	3.6
空気質環境	3.6

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.5

機能性	1.9
耐用性・信頼性	2.8
対応性・更新性	3.0

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 1.7

生物環境	1.0
まちなみ・景観	2.0
地域性・アメニティ	2.0

**LR 環境負荷低減性** LR のスコア = 3.3

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.8

建物外皮の熱負荷	3.0
自然エネルギー	3.0
設備システム効率化	4.7
効率的運用	3.0

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.9

水資源保護	3.0
非再生材料の使用削減	2.8
汚染物質回避	3.3

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.9

地球温暖化への配慮	3.5
地域環境への配慮	2.4
周辺環境への配慮	2.8

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
<b>緑の保全・回復(G)</b>		<b>Gの平均点</b>	<b>1.8</b>
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出			
2 まちなみ・景観への配慮		1.4/4.3	1.6
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	気象データを参照	0.3/0.8	2.0
<b>地球温暖化防止対策の推進(W)</b>		<b>Wの平均点</b>	<b>2.7</b>
Q-1 ■ 室内環境対策			
2 2.1 2.1.2 外皮性能			
3 3.1 3.1.3 昼光利用設備		1.9/2.7	3.5
3.2 3.2.1 昼光制御	レースカーテンとバルコニーで昼光制御		
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出			
3 3.2 敷地内温熱環境の向上		0.6/2.3	1.3
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制			
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化	BEI=0.77(住宅部分)	3.9/5.0	3.9
4 効率的運用			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護			
2 非再生性資源の使用量削減	LGS下地を採用	2.8/4.7	2.9
3 3.2 フロン・ハロンの回避			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	気象データを参照	0.3/0.8	2.0
<b>資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)</b>		<b>Rの平均点</b>	<b>2.7</b>
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 部品・部材の耐用年数		0.2/0.5	2.5
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護			
2 非再生性資源の使用量削減	LGS下地を採用	2.3/4.0	2.9
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.3 地域インフラへの負荷抑制		0.2/0.4	3.0
<b>ヒートアイランド現象の緩和(H)</b>		<b>Hの平均点</b>	<b>2.4</b>
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出			
3 3.2 敷地内温熱環境の向上		0.6/2.3	1.3
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制			
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化	BEI=0.77(住宅部分)	3.9/5.0	3.9
4 効率的運用			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	気象データを参照	0.3/0.8	2.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **2.5**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
<b>建設段階</b>			
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数		0.1/0.1	3.0
<b>修繕・更新・解体段階</b>			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
2 2.2 既存建築躯体等の継続利用		0.7/1.2	3.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			
<b>運用時のエネルギー</b>			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制			
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化	BEI=0.77(住宅部分)	3.9/5.0	3.9
4 効率的運用			

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		竣工段階				環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体					
配慮項目		重点項目	G	W	R		H	評価点	重み係数	評価点		重み係数				
<b>Q 建築物の環境品質</b>											<b>2.5</b>					
<b>Q1 室内環境</b>											<b>3.1</b>					
<b>1 音環境</b>											<b>3.0</b>					
1.1 室内騒音レベル											3.0	0.49	3.0	0.50	3.0	
1.2 遮音											3.0	0.49	3.0	0.50		
1 開口部遮音性能											3.0	1.00	3.0	0.30		
2 界壁遮音性能											-	-	3.0	0.30		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)											-	-	3.0	0.20		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)											-	-	3.0	0.20		
1.3 吸音											3.0	0.01	-	-		
<b>2 温熱環境</b>											<b>2.6</b>	<b>0.35</b>	<b>2.6</b>	<b>1.00</b>		<b>2.6</b>
2.1 室温制御											3.0	0.50	3.0	0.50		2.6
1 室温											3.0	0.62	3.0	0.63		
2 外皮性能											3.0	0.36	3.0	0.38		
3 ゾーン別制御性											3.0	0.02	-	-		
2.2 湿度制御											1.0	0.20	1.0	0.20		
2.3 空調方式											3.0	0.30	3.0	0.30		
<b>3 光・視環境</b>											<b>3.0</b>	<b>0.25</b>	<b>4.0</b>	<b>1.00</b>	<b>3.6</b>	
3.1 昼光利用											4.1	0.31	4.0	0.50	3.6	
1 昼光率											5.0	0.56	5.0	0.50		
2 方位別開口											-	-	3.0	0.30		
3 昼光利用設備											3.0	0.44	3.0	0.20		
3.2 グレア対策											2.0	0.28	4.0	0.50		
1 昼光制御											2.0	1.00	4.0	1.00		
3.3 照度											3.0	0.14	-	-		
3.4 照明制御											3.0	0.27	-	-		
<b>4 空気質環境</b>											<b>3.6</b>	<b>0.25</b>	<b>3.6</b>	<b>1.00</b>		<b>3.6</b>
4.1 発生源対策											4.0	0.59	4.0	0.63		3.6
1 化学汚染物質											4.0	1.00	4.0	1.00		
4.2 換気											3.0	0.39	3.0	0.38		
1 換気量											3.0	0.50	3.0	0.33		
2 自然換気性能											-	-	3.0	0.33		
3 取り入れ外気への配慮											3.0	0.50	3.0	0.33		
4.3 運用管理											4.0	0.01	-	-		
1 CO <sub>2</sub> の監視											3.0	0.50	-	-		
2 喫煙の制御											5.0	0.50	-	-		

Q2 サービス性能					—	0.30	-	-	2.5
<b>1 機能性</b>									
1.1 機能性・使いやすさ									
1	広さ・収納性				1.0	0.40	3.0	1.00	1.9
2	高度情報通信設備対応				1.0	1.00	3.0	-	
3	バリアフリー計画				1.0	1.00	3.0	-	
1.2 心理性・快適性									
1	広さ感・景観				3.0	0.02	1.0	0.50	
2	リフレッシュスペース				2.0	0.02	3.0	-	
3	内装計画				1.0	0.95	1.0	0.50	
1.3 維持管理									
1	維持管理に配慮した設計				3.0	0.50	3.0	-	
2	維持管理用機能の確保				3.0	0.50	3.0	-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>									
2.1 耐震・免震・制震・制振									
1	耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80	3.0	-	2.8
2	免震・制震・制振性能				3.0	0.20	3.0	-	
2.2 部品・部材の耐用年数									
1	躯体材料の耐用年数		R		3.0	0.20	3.0	-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔		R		2.0	0.20	3.0	-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔		R		2.0	0.10	3.0	-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔		R		3.0	0.10	3.0	-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔		R		3.0	0.20	3.0	-	
6	主要設備機器の更新必要間隔		R		2.0	0.20	3.0	-	
2.4 信頼性									
1	空調・換気設備				3.0	0.20	3.0	-	
2	給排水・衛生設備				3.0	0.20	3.0	-	
3	電気設備				3.0	0.20	3.0	-	
4	機械・配管支持方法				3.0	0.20	3.0	-	
5	通信・情報設備				3.0	0.20	3.0	-	
<b>3 対応性・更新性</b>									
3.1 空間のゆとり									
1	階高のゆとり			非住宅:3.9m以上/住宅:2.9m以上	5.0	0.60	4.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ				3.0	0.40	2.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり									
3.3 設備の更新性									
1	空調配管の更新性				3.0	0.20	3.0	-	
2	給排水管の更新性				3.0	0.20	3.0	-	
3	電気配線の更新性				3.0	0.10	3.0	-	
4	通信配線の更新性				3.0	0.10	3.0	-	
5	設備機器の更新性				3.0	0.20	3.0	-	
6	バックアップスペースの確保				3.0	0.20	3.0	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>									
1 生物環境の保全と創出				G	W				
2 まちなみ・景観への配慮				G					
3 地域性・アメニティへの配慮									
3.1 地域性への配慮、快適性の向上									
3.2 敷地内温熱環境の向上				G	W				

